

2025 年度 入学試験問題

## 公募制推薦入試

2024 年 11 月 9 日 (第 1 日)

第 2 限

国

語

【現代の国語、言語文化】  
【古文・漢文は含まない】

### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 22 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 45 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。  
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

## 第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

退屈と気晴らしについて考察するパスカルの出発点にあるのは次の考えだ。

人間の不幸などというものは、どれも人間が部屋でじっとしてられないがために起こる。部屋でじっとしていいのに、そうできない。そのためわざわざ自分で不幸を招いている。

パスカルはこう考えているのだ。生きるために十分な食い扶持ぶちをもっている人なら、それで満足していればいい。でもおろかなる人間は、それに満足して部屋でゆっくりしていることができない。だからわざわざ社交に出かけてストレスをため、賭け事に興じてカネを失う。

それだけならまだしましたが、人間の不幸はそれどころではない。十分な財産をもっている人は、わざわざ高い金を払って軍職を買い、海や要塞ようさいのホウイ戦aに出かけていって身を危険にさらす（パスカルの時代には、軍のポストや裁判官のポストなどが売りに買ひされていた）。もちろん命を落とすことだつてある。なぜわざわざそんなことをするのかと云えば、部屋でじっとしてられないからである。

部屋でじっとしてられないとはつまり、部屋に一人でいるとやることなくてそわそわするということ、それにガマンがならないということ、つまり、退屈するということだ。たつたそれだけのことが、パスカルによれば人間のすべての不幸のゲンセbンなのだ。

彼はそうした人間の運命を「みじめ」ミゼールと呼んでいる。「部屋にじっとしてられないから」という実につまらない理由で不幸を招いているのだとしたら、**I** 人間はこの上なく「みじめ」だ。

話を進めよう。ここからがパスカルの分析のおもしろいところだ。

人間は退屈に耐えられないから気晴らしをもとめる。賭け事をしたり、戦争をしたり、名誉ある職をもとめたりする。それだけならまだ分かる。しかし人間のみじめはそこで終わらない。

おろかなる人間は、退屈にたえられないから気晴らしをもとめているにすぎないというのに、自分が追いもとめるもののなかに本当の幸福があると思ひ込んで、とパスカルは言うのである。

どうということだろうか？ パスカルがあげる狩りの例を通して見てみよう。

狩りというのはなかなか大変なものである。重いソウビ<sup>c</sup>をもって、一日中、山を歩き回らねばならない。お目当ての獲物<sup>えもの</sup>にすぐに出会えるとも限らない。うまいこと獲物が見つければ、ヤツキ<sup>d</sup>になって追いかける。

喜一憂する。

そんな狩りに興じる人たちについてパスカルはこんな意地悪なことを考える。ウサギ狩りに行く人がいたらこうしてみなさい。「ウサギ狩りに行くのかい？ それなら、これやるよ」。そう言つて、ウサギを手渡すのだ。

さてどうなるだろうか？

その人はイヤな顔をするに違いない。

なぜウサギ狩りに行こうとする人は、お目当てのウサギを手に入れたというのに、イヤな顔をするのだろうか？

答えは簡単だ。ウサギ狩りに行く人はウサギが欲しいのではないからだ。

狩りとは何か？ パスカルはこう言う。狩りとは買ったたりもらつたりしたのでは欲しくもないウサギを追いかけて一日中駆けずり回ることである。人は獲物が欲しいのではない。退屈から逃れたいから、気晴らしをしたいから、

間の運命から眼をそらしたいから、狩りに行くのである。

狩りをする人が欲しているのは、「不幸な状態から自分たちの思いをそらし、気を紛らせてくれる騒ぎ」に他ならない。だと  
いうのに、人間ときたら、獲物を手に入れることに本当に幸福があると思ひ込んで、買ったたりもらつたりしたのでは欲しく

もないウサギを手に入れることに本当に幸福があると思ひ込んでいる。

パスカルは賭け事についても同じことを述べている。毎日わずかの賭け事をして、退屈せずに日々を過ごしている人がいるとしよう。「賭け事をやらないという条件つきで、毎朝、彼が一日にもうけられる分だけのカネを彼にやってみたまえ。そうすれば、君は彼を不幸にすることになる」。当然だ。毎日賭け事をしている人はもうけを欲しているのではないのだから。

パスカルが述べていることをより一般的な言い方で定式化してみよう。それを、<sup>E</sup>〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉の区別として説明することができるだろう。

〈欲望の対象〉とは、何かをしたい、何かが欲しいと思っているその気持ちが向かう先のこと、〈欲望の原因〉とは、何かをしたい、何かが欲しいというその欲望を人のなかに引き起こすものことである。

ウサギ狩りにあてはめてみれば次のようになる。ウサギ狩りにおいて、〈欲望の対象〉はウサギである。たしかにウサギ狩りをしたという人の気持ちはウサギに向かっている。

しかし、実際にはその人はウサギが欲しいから狩りをするのではない。対象はウサギでなくてもいいのだ。彼が欲しているのは、「不幸な状態から自分たちの思いをそらし、気を紛らせてくれる騒ぎ」なのだから。つまりウサギは、ウサギ狩りにおける〈欲望の対象〉ではあるけれども、その〈欲望の原因〉ではない。それにもかかわらず、狩りをする人は狩りをしながら、自分はウサギが欲しいから狩りをしているのだと思ひ込む。つまり、〈欲望の対象〉を〈欲望の原因〉と取り違える。

賭け事でも同じように〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉を区別できる。賭け事をしたという欲望はもうけを得ることを対象としている。だがそれは、賭け事をしたという欲望の原因ではない。繰り返すが、「毎日カネをやるから賭け事をやめろ」と言うなら、あなたはその人を不幸にすることになるのだ。その人はもうけが欲しいから賭け事をしているわけではないのだから。

どちらの場合も、〈欲望の原因〉は部屋にじっとしていられないことにある。退屈に耐えられないから、人間のみじめさか

ら眼をそらしたことから、気晴らしがほしいから、汗水たらしてウサギを追いもとめ、財産を失う危険を冒して賭け事を行う。それにもかかわらず、人間は〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉を取り違える。ウサギが欲しいからウサギ狩りに行くのだと思いつむ。

(國分功一郎『暇と退屈の倫理学』による。なお、設問の都合上、原文の一部を改変した箇所がある。)

〔注〕 \*パスカル……フランスの数学者・物理学者・哲学者・宗教思想家(一六三二～一六六二)

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

<p>c ソウビ</p> <p>⑤ 気づかれないようにビコウする</p> <p>④ 風邪を引いてビエンになる</p> <p>③ 会議のビボウ録をつける</p> <p>② 古都のピカンを損ねる</p> <p>① ビシヨウを浮かべる</p>	<p>a ホウイ</p> <p>⑤ 全員の意見をホウカツする</p> <p>④ 今年のホウフを発表する</p> <p>③ 逆のホウコウに動く</p> <p>② ホウシ活動をする</p> <p>① 牛をホウボクする</p>	<p>b ゲンセン</p> <p>⑤ 彼はゴゲンの研究をしている</p> <p>④ 利益を社会にカンゲンする</p> <p>③ 疲労がゲンカイに達する</p> <p>② ゲンアン通りに可決する</p> <p>① ゲンジツを直視する</p>	<p>d ヤツキ</p> <p>⑤ 優勝の知らせにカンキする</p> <p>④ 大いにフンキして勉強する</p> <p>③ ホンキで仕事に取り組む</p> <p>② 人生のテンキが訪れる</p> <p>① キンキを犯す</p>
	a	b	c
	1	2	3
		d	4

問二 空欄 I ・ II ・ III に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一

つずつ選べ。(同一選択肢の反復使用は不可)

- ① けだし      ② さながら      ③ そのあげく      ④ たしかに      ⑤ ひいては      ⑥ よもや

I 5      II 6      III 7

問三 傍線部 A 「人間の不幸はそれどころではない」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。

8

- ① 十分な財産を持つ人は、部屋でじっと一人で物事に取り組み、生活を充実させる能力を失う。  
② 退屈であることは、人間の判断力を鈍らせ、能力に合わない軍職を買うことにまでつながる。  
③ 人間は、持っている財産が大きければ大きいほど退屈しやすくなり、不幸を招く頻度が高まる。  
④ 人間は、部屋にじっとしていられないというだけの理由で、高い金を払って、命を懸けた行為にまで及ぶ。  
⑤ 人間は、社交に出ていくだけでもストレスが溜まる<sup>た</sup>というのに、その場でわざわざ散財し金銭面でも困窮する。

問四

傍線部B「おもしろいところ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

9

- ① 人間は、自分が本当に欲しているものはウサギでもカネでもないを理解しつつも、ウサギ狩りや賭け事をやめることができないというところ。
- ② 同じウサギ狩りに行く場合であっても、獲物が捕れる保証がないほうが、結果に一喜一憂できる分、気晴らしとしての効果が高くなるというところ。
- ③ 人間は、部屋に一人でじっとしていられないがために気晴らしをしているだけなのに、その気晴らしによって得られるもののなかに幸福があると信じ込んでいるというところ。
- ④ わざわざウサギ狩りに行こうとする人に対して、その人が欲しいはずのウサギを渡したとしても、なぜかイヤな顔を見られるという事実を発見したところ。
- ⑤ 生活していくのに十分な経済力があるにも関わらず、退屈だからという理由でわざわざ自身の身を危険にさらし、戦争を始める人間が存在するというところ。

問五 傍線部C「意地悪なこと」とあるが、ウサギ狩りに行く人にウサギを渡すことがなぜ意地悪だといえるのか。最も適当な

ものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

10

- ① ウサギを渡すことは、生きた獲物を仕留めるというウサギ狩りの最大の楽しみを、蔑ろにする行為だから。
- ② ウサギを渡すことは、ウサギ狩りという気晴らしが無意味で滑稽であるという事実を相手に暗に示す行為だから。
- ③ ウサギを渡すことは、ウサギ狩りに行ってもウサギは捕れるはずがないと、狩りに行く前から決めつける行為だから。
- ④ ウサギを渡すことは、相手の真の目的が獲物そのものではないと理解しながら、相手の気晴らしに水を差す行為だから。
- ⑤ ウサギを渡すことは、ただでさえ重いソウビを持って山中を歩き回らねばならない相手に、余計な荷物を増やす行為だから。

問六 傍線部D「同じこと」とあるが、何と何が同じなのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

11

- ① ウサギ狩りに行く人が毎日飽きずに山中を駆け回ると同様に、賭け事をする人も少額ながら毎日賭け事をしてもうけを得ているということ。
- ② ウサギ狩りに行く人にウサギを渡すことが失礼であるのと同様に、賭け事を行う前からカネを渡すことは相手を軽んじる行為であるということ。
- ③ 一日中ウサギを追いかけて回すことで退屈せずに過ごしている人がいるのと同様に、もうけが出るまで賭け事を続けることで退屈から逃れている人がいるということ。
- ④ ウサギ狩りに行く人にウサギを渡してもイヤな顔をされるのと同様に、賭け事をする人にもうけられるであろうカネを渡しても相手は幸せになれないということ。
- ⑤ ウサギ狩りに行く人がウサギを渡されることで狩りの本当の目的に気づくのと同様に、賭け事をする人は金銭を渡されることで初めて賭け事の醍醐味だいごみに気づくということ。

問七 傍線部E「〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉」の組み合わせとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

12

- ① 〈欲望の対象〉 捕獲を目的としたウサギ狩り      〈欲望の原因〉 ウサギを捕らえること
- ② 〈欲望の対象〉 ウサギ狩りにかけるウサギ      〈欲望の原因〉 退屈に耐えられないこと
- ③ 〈欲望の対象〉 気を紛らせてくれる騒ぎ      〈欲望の原因〉 不幸な状態を脱すること
- ④ 〈欲望の対象〉 賭け事におけるカネ      〈欲望の原因〉 部屋でじっとしていること
- ⑤ 〈欲望の対象〉 報酬を得たいという気持ち      〈欲望の原因〉 賭け事でもうけを得ること

問八 傍線部F「人間は〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉を取り違える」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① 獲物が得られれば満足できるはずなのに、人からもらったウサギは嬉しくないと思い込む。
- ② 賭け事で得たもうけと人から与えられたカネとは、同額であっても価値が違ふと思ひ込む。
- ③ 狩りの獲物はウサギでなくても気晴らしになるのに、ウサギでないと思ひ込む。
- ④ 退屈を紛らわすために賭け事に興じているのに、もうけそのものが欲しいものだと思ひ込む。
- ⑤ カネは苦勞せず得られるに越したことはないのに、人から与えられると不幸になると思ひ込む。

問九 パスカルが述べるところの「気晴らし」の例として、当てはまらないものはどれか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① 名誉ある職を求めること
- ② 戦場に出ていき、身を危険にさらすこと
- ③ 生活に必要な食料や金銭を手に入れること
- ④ 一日中ウサギを追い求めて山中を駆け回ること
- ⑤ 金銭を失うリスクを負いながら賭け事に興じること

問十 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① 人間が退屈さから気晴らしを求めるのは逃れられない運命ではあるが、その気晴らしが戦争といった過激な行為であってはならない。
- ② 本当は欲しくもないウサギを探して、捕れた捕れなかったで一喜一憂している人は、自分に合った気晴らしを見つかることができていない。
- ③ 退屈から逃れるためには、気を紛らわすのに十分なスリルが必要であるため、賭け事に投じるカネは日ごとに増すことになり、やがて身を亡ぼす。
- ④ 〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉をよく見極めて、気晴らしが行き過ぎた行為にならないようにすれば、徒労や損失を最低限に抑えることが可能である。
- ⑤ 人間は退屈に耐えられないという理由だけのために、余計な労力をかけた上、労力をかけた先に本当の幸福があるのだと勘違いをしていると、パスカルは述べている。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間は同胞を助ける気持ちが強くなります。目の前で、お年寄りや小さい子供が道でつまずいたりすると、おもわず「危ない」と助ける行為はほとんどの人に見られるのではないのでしょうか。特に自分にメリットが還ってくるのを期待するわけでもなく、とっさに取る行為といえるでしょう。このような行為は利他的行動といわれます。このような利他的行動は生物が誕生し進化するなかで、どのようにして生じたのでしょうか。そして、利他的行動は自己のためではなく、本当に他の個体のために行っている行為なのでしょうか。

<sup>A</sup> 利他的行動のほうが、利己的行動よりも集団としてのメリットが大きという説があります。災害が起こったときに人々が利己的に I に逃げ出すのではなく、利他的に助け合う行動のほうが多く助かることが分かっているからです。逃げ道を見つけたときに、ひとりだけ逃げるのではなく、逃げ道があることを皆に知らせて逃げるほうが助かる人間が多く、集団としてのメリットが大きい。また、逃げる途中、さらなる困難にぶつかったときに、今度は別の人間が逃げ道を見つけたらするので、助かる確率が高くなります。<sup>B</sup> 結局、こうした助け合いが集団を利することになります。

集団内での助け合いは動物にも見られます。シジュウカラガンやミーアキャットのように、鳥類や哺乳類の世界では自分が属する集団を守るために見張り役を行う個体が存在します。この個体は外敵が近くに来たことを察すると II 警告音を出して仲間に危険を知らせます。この個体は目立つ行為をするので外敵の餌食になりやすく、このような行為はその個体自身にとってはデメリットといえるでしょう。それにもかかわらず、こうした利他的行動には集団全体でみると、逃げる準備ができ生存率が高くなるというメリットがあるように思えます。

しかし、これには別の見方<sup>C</sup>もあります。最初に敵を発見した個体にしてみれば、黙って飛び立つと群れから離れるリスクが大きいので、危険を少なくするため、警告音を出して他の仲間と同時に飛び立つほうを選ぶのだという考え方です。そのため、警告音を出す行為は、ジュンスイ<sup>A</sup>な利己的行動であり、他個体に対する「操作」だという説もあります。

生物はそもそも、生まれつき利己的なのか、それとも利他的なのか。これは難しい問題です。まず最初に利他的行動についてみてみましょう。利他的行動のなかで最たるものは母親の子供に対する愛情でしょう。この感情に基づく行動は人間に限らず多くの生物で見られ、親が子供を命懸けで保護する行動を取ることがよく知られています。酔っぱらった人の「千鳥足」という歩き方の **III** で知られるチドリという鳥は、捕食者が近づいてくると地上の巣のなかにいる子供を守るために「見奇妙な行動を取ります。どういう行動か」と、親は敵が来ると巣から離れ、わざと傷ついたふりをします。この行動は捕食者の注意を我が身に振り向かせ、子供のいる巣に捕食者の眼がいかないようにすることが目的です。そして、捕食者が巣から離れて間近に迫ってくると、とっさに羽ばたいて逃げるのです。

母親だけでなく、群れのなかの血縁関係にある大人が協力し合って子供を守る行為は、多くの生物で見られます。以前、旅行でアフリカのザンベジ川を訪れたときにファミリーと思われる象の集団を見たことがあります。その集団では大人の象が仔象を中心に川を渡っていました。集団で子供たちを守っていたのです。象に限らず、グループで生活する哺乳類には子供を守る行動がよく見られます。

<sup>E</sup> 血縁者間の利他的行為はどうして起こるのでしょうか。これについてはリチャード・ドーキンスの理論が有名です。ドーキンスによると、進化に重要なのは遺伝子であり、遺伝子を保持する個体自身は「遺伝子の乗り物」なのです。そして遺伝子が意図しているのは自らが増殖することで、個体自身は単なる遺伝子を乗せる道具にすぎないといえます。この考えによると、自分に近い子供や兄弟は自身の遺伝子と共通するものが多く、その共通部分の割合が高いほど自分に近いコピーなので自分自身と同じように大切にします。兄弟は二分の一、甥や姪は四分の一というように遺伝子の類似性は薄れていきますが、遺伝子の類似性（いわゆる血の繋がりの濃さ）が高いほど大切にされるケイコウが見られます。『利己的な遺伝子 (The selfish gene)』というタイトルの発表されたドーキンスの著書は、血縁関係が近い集団の行為を生物学的に説明するものとして大きな **IV** を引き起こしました。このような血縁選択による相互扶助は多くの動物で見られる行為です。

しかし、利他的行動は血縁関係だけで説明されるものではありません。イルカや犬は人間を助ける行為をすることが時々ホウ

ドウされますが、イルカや犬は人間とはもちろん血縁関係がありません。では、このような行動は社会性のある利他的な動機を反映した行為でしょうか？ 残念ながら、そうともいえません。例として、イルカが溺れているヒトを助ける行動を考えてみましょう。イルカの子供や弱ったイルカは溺れることがあります。それを、イルカは日常的に浮かび上がらせるような行動をとります。イルカには海面近くで溺れている細長い物体を持ち上げるシユウセイ<sup>d</sup>があり、これを溺れたヒトに応用していることになりません。つまり、助けようと考えて行動したのではなく、遺伝子に組み込まれた行動になります。<sup>F</sup>イルカの行動としては利他的行動といえそうですが、「遺伝子による行動進化」というワンクッションがはいられます。

(鈴木正彦・末光隆志『「利他」の生物学』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。)

〔注〕 \*リチャード・ドーキンス……イギリスの進化生物学者・動物行動学者。(一九四一)

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

a

b

c

d

a ジュンスイ

- ① 候補者をスイセンする
- ② 鉄棒でケンスイをする
- ③ 努力がスイホウに帰す
- ④ 盛者ヒッスイのことわり
- ⑤ 重要部分のみバツスイする

b ケイコウ

- ① ケイミヨウな語り口
- ② 有名なケイシヨウ地を訪れる
- ③ 他部署とレンケイして課題に取り組む
- ④ 仏教の教えに感銘を受けケイトウする
- ⑤ 現代人の睡眠不足にケイシヨウを鳴らす

c ホウドウ

- ① 自立心のホウガ
- ② ホウフク攻撃をおこなう
- ③ 室町時代のホウケン制度
- ④ 医師がシヨホウセンを出す
- ⑤ 人のモホウばかりで独創性がない

d シュウセイ

- ① シュウグ政治を嘆く
- ② 村の古いフウシュウ
- ③ アイシュウの漂うメロデー
- ④ シュウイツな作品に感激する
- ⑤ 専門家に本のカンシュウを依頼する

問二 傍線部 A 「利他的行動のほうが、利己的行動よりも集団としてのメリットが大きい」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

20

- ① 集団全体を統率する個体がいるほうが、個々のメンバーが効率的に動くことができるから。
- ② 大事な情報を集団のメンバー間で共有できるため、益を受ける個体はその分多くなるから。
- ③ 他者の利益になることをしてあげれば、今度はその他者が恩返しに自分を助けてくれるから。
- ④ どの個体にも何らかの欠点がある以上、それを補い合うために集団内の多様性が必要だから。
- ⑤ メンバー同士で互いに助け合う関係になれば、集団として活動する意義が小さくなるから。

問三

空欄

I

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

21

- ① 今先
- ② 口先
- ③ 何先
- ④ 矢先
- ⑤ 我先

問四

傍線部 B 「結局」の意味機能に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 色々と検討した末の結論を述べる際に用いる表現
- ② 相手の期待とは異なることを述べる際に用いる表現
- ③ 自分の主張を強調して断定的に伝える際に用いる表現
- ④ 前述の根拠をふまえて意見を提示する際に用いる表現
- ⑤ 話題にひと区切りつけて別の話題に移る際に用いる表現

問五 空欄

II

には「突然、相手を驚かすような高い音がするさま」という意味のことばが入る。ここに入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① あさましい      ② いかめしい      ③ ぎょうぎょうしい      ④ けたたましい      ⑤ そそっかしい

23

問六

傍線部C「別の見方」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

① 警告音を発するのは、他の個体の安全を考えての行動というよりは、逃げた後の自分の安全を考えての行動である、という見方。

② 仲間への知らせのように思える警告音は、実は外敵に向けたものであり、外敵から自身を守るための利己的な行為である、という見方。

③ 警告音を発することは、その個体自身の命を危険にさらす行為である一方、集団全体としては生存率が高まるメリットがある、という見方。

④ 利他的行為は、はじめから集団を意識したものではなく、あくまで特定の個体に向けたものが最終的に集団の利になっっているにすぎない、という見方。

⑤ 外敵の接近に気づいた個体は、警告音を発することで自身が目立つリスクと、黙って逃げて孤立するリスクとを天秤にかけて慎重に行動している、という見方。

問七

空欄

III

に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

25

- ① ことわざ      ② 殺し文句      ③ 常套句      ④ 代名詞      ⑤ 比喩

問八 傍線部D「一見奇妙な」の本文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

26

- ① 誰の目にも滑稽に映るような
- ② 一目で異常だと分かるほどの
- ③ 動物の行動としては非常に珍しい
- ④ 行動の意味が即座には理解できないような
- ⑤ どころなく不自然で違和感を覚えるような

問九 傍線部E「血縁者間の利他的行為はどのようにして起こるのでしょうか。これについてはリチャード・ドーキンスの理論が有名です」とあるが、リチャード・ドーキンスの理論にもとづく、血縁者間における利他的行為の理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 血縁者間における相互扶助は、多くの動物で観察される行為だから。
- ② 時を経て、遺伝子が利己的な志向から利他的な志向へと進化したから。
- ③ 互いに見た目や行動が似ているため、相手に対する共感が生じやすいから。
- ④ 互いにとつて相手は、遺伝子の視点に立てば、部分的に「自分」の要素をもっていることになるから。
- ⑤ 姪や甥よりも、兄弟のほうが遺伝子の類似性が高く、その分大切にしようとするから。

問十 空欄IVには「発表された事柄を受けて起こる様々な反応」という意味のことばが入る。ここに入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

28

- ① 応酬
- ② 呼応
- ③ 順応
- ④ 反感
- ⑤ 反旗
- ⑥ 反響

問十一 傍線部F「イルカの行動としては利他的行動といえそうですが、「遺伝子による行動進化」というワンクッションがはいります」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

① イルカは溺れている人間を助けはするものの、だからといってイルカが人間のことを血縁者だと見なしているわけではない、ということ。

② 血縁者ではない人間を助ける行動は表面上は利他的なものに見えるが、根本的には、利己的な動機に由来して行われる行動である、ということ。

③ 血縁関係がなくともイルカが人間を助けようとするのは、イルカが進化の過程で獲得した利他的な心の結果である、ということ。

④ イルカの行動は結果的には利他的なものだが、行動の理由は利他的な志向によるものではなく、「溺れている細長い物体を持ち上げるシウセイ」によるものだ、ということ。

⑤ イルカの行動はジュンスイに人間を助けるために行っているというよりは、人間を助ける経験が仲間のイルカを助ける際に役立つという、イルカという集団にとっての利益のために行っていることだ、ということ。

問十二 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① 血のつながりは、利他的行動をおこなう動機となる一つのファクターである。

② 他の生物とは異なり、人間は、生得的に利他的な志向をもつ、稀有な生物種である。

③ 生物は生まれつき利己的であるが、他者との関係をとおして利他的行動を身につけていく。

④ 利己的に見える行動は、外面的にはそう見えるが、実際は利他的な動機にもとづくものである。

⑤ 利己的であるか利他的であるかは生物種によって異なり、生物全体で一概にいえることではない。

### 第三問 次のそれぞれの問いに答えよ。

問一 (i) ～ (v) の二つの語の関係と同じ関係になる組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) 伝道—布教

- ① 五角—相對
- ② 大意—概算
- ③ 模写—手本
- ④ 野心—粗暴
- ⑤ 廉価—安価

31

(ii) 各論—総論

- ① 遺失—拾得
- ② 活況—鎮静
- ③ 増長—幻滅
- ④ 濃厚—希釈
- ⑤ 変革—沿革

32

(iii) 警察官—公務員

- ① 勤怠—出社
- ② 雇用—採用
- ③ 所得税—税金
- ④ 賃金—身銭
- ⑤ 役職—課長

33

(iv) 音頭—とる

- ① 上前—放つ
- ② 間髪—絶つ
- ③ 鼻筋—立てる
- ④ 骨身—磨く
- ⑤ へそ—曲げる

34

(v) 手紙—一通

- ① 櫛—一枚
- ② 靴下—一脚
- ③ 筆筒—一間
- ④ 暖簾—一幕
- ⑤ 包丁—一品

35

問二 (i) ～ (v) のことはの意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) ドラスティック

- ① 画一的
- ② 家庭的
- ③ 個人的
- ④ 個性的
- ⑤ 抜本的

36

(ii) ダイバーシティ

- ① 拡張性
- ② 再現性
- ③ 即興性
- ④ 多様性
- ⑤ 流動性

37

(iii) 嚙矢こやし

- ① 少しの間
- ② 貴重な物品
- ③ 物事のはじめ
- ④ 勢い良く進む様子
- ⑤ 非常に効果的なこと

(iv) 一枚嚙かむ

- ① 目的を全力で成し遂げる
- ② ある役割を担い事柄に加わる
- ③ 重要な任務を勝手に放棄する
- ④ 集団の代表者として全責任を取る
- ⑤ 周囲に引き留められても深入りする

(v) 面目を施す

- ① 財産をすべて寄付する
- ② 包み隠さずすべてを話す
- ③ あることをして名誉を得る
- ④ 苦しまぎれの言い訳をする
- ⑤ 身を粉にして人のために働く

問三 (i) ～ (v) の空欄に入ることばとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) 不正が発覚し、ごうごうたる [ ] を浴びる。

- ① 批判
- ② 非難
- ③ 皮肉
- ④ 批評
- ⑤ 評判

[ ] 41

(ii) 顧客からのクレームは [ ] に受け止めるべきだ。

- ① 真摯
- ② 真実
- ③ 真相
- ④ 真理
- ⑤ 真贋しんかん

[ ] 42

(iii) 難病治療にむけた新薬開発のために心血を [ ] 。

- ① 注ぐ
- ② 守る
- ③ 懸ける
- ④ 切らす
- ⑤ 尽くす

[ ] 43

(iv) 彼の画力は抜きんでており、他の [ ] を許さない。

- ① 追求
- ② 追跡
- ③ 追走
- ④ 追隨
- ⑤ 追認

[ ] 44

(v) 突然地下室から絹を [ ] ような叫び声が聞こえてきた。

- ① 切る
- ② 裂く
- ③ 絞る
- ④ 断つ
- ⑤ 破る

[ ] 45

2025 年度 入学試験問題

## 公募制推薦入試

2024 年 11 月 10 日 (第 2 日)

第 2 限

国

語

【現代の国語、言語文化】  
【古文・漢文は含まない】

### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
- 2 この問題冊子は 23 ページである。
- 3 解答番号は 1 から 45 までである。
- 4 解答用紙には、受験番号、受験科目および氏名を正しく記入・マークすること。
- 5 解答は解答用紙の解答欄にマークすること。
- 6 試験中にページの脱落等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。  
解答用紙の汚れ等に気付いた場合も同様である。
- 7 問題冊子は試験終了後、持ち帰ること。

## 第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

コロナ禍が勢いを増しつつあった二〇二〇年の春、「自粛警察」と呼ばれる動きが話題を呼んだ。外出、移動、店舗の営業などを自粛するよう要請されているにもかかわらず、それに従わない「自粛破り」を厳しく取り締まろうと、一般の人々の間で繰り広げられた自警団的な動きを指すものだ。

営業している店舗や外出している集団を見つけると、その旨を警察に通報したり、SNSで晒<sup>さ</sup>し上げたり、はては脅迫<sup>A</sup>まがいのビラを店舗に貼り付けたりするなど、さまざまなセイサイ<sup>a</sup>行為が繰り広げられ、大きな社会問題となった。また、域外から来た自動車に傷を付けるなど、より過激な犯罪行為も見られた。その暴走ぶりはすさまじく、同年五月には当時の菅義偉官房長官が、「法令に違反する場合は関係機関で適切に対処したい」と言明したほどだった。

当時、諸外国では罰則を伴う法的な措置により、ロックダウンが課されるなどして行動制限が行われていたが、日本ではそうした措置を取ることが困難だったため、各自が行動を自粛するよう政府から要請されたのみだった。ところがそれが利きすぎたのか、自粛をテッテイ<sup>b</sup>しようという動きが暴走し、そのため逆の意味での法的な対処を考えざるをえなくなったというのは、何とも奇妙な<sup>B</sup>ことだった。

こうしたヒステリックな「正義の暴走」は、しかしこのときに初めて現れたものではない。とくに二〇一〇年代を通じて、大規模な自然災害などの災厄に見舞われるたびに問題とされてきたことだった。例えば二〇一六年四月の熊本地震の直後には、「不謹慎狩り」と呼ばれる動きがSNS上に横行した。被災地の状況に配慮し、浮ついた行動は自粛すべきなのに、そうした

I に従っていないとして、一部の芸能人などに激しいバッシングが浴びせられた。例えば女優の長澤まさみは、友人たちと笑顔で写っている写真をインスタグラムにアップ<sup>c</sup>ただけで不謹慎だとされ、削除することを余儀なくされた。

このように疫病、戦争、自然災害などの災厄に際して自粛が要請されているにもかかわらず、それに従わない者に対してネット上に強力な自警団が形成され、激しいバッシングが浴びせられる。とくに二〇〇〇年代以降の日本ではそうした行為がことあ

ることに繰り返され、炎上のレパートリーの一つとなってきた。コロナ禍という大規模な災厄に際してそれがひとときわ激しく噴き出してきたのが今回の動きだったと言えるだろう。

ではこうした「自粛警察現象」は、とくに近年の日本でなぜ頻発するようになったのだろうか。その背景には何があったのだろうか。

ここでまず「自粛」という行動様式そのものについて考えてみよう。それは元来、「自分から進んで、行いや態度を慎むこと」を意味する語であり、自己決定に基づいて行うものだ<sup>E</sup>とされている。言いかえれば自粛とは、他者から命じられたり請われたりして行うものではない。にもかかわらずそれを「要請」とするのは、そしてそれに応えて「自粛」とするのは、そもそも矛盾した考え方だろう。

そうした矛盾を引き受けることになったのが、ある意味で自粛警察という存在だったのではないだろうか。

というのも今回、政府という権力によって自粛が要請されたわけだが、しかし自粛とは自己決定に基づいて行うものだ<sup>E</sup>とされているため、権力がその所在を明示的に示すわけにはいかない。にもかかわらず人々はそれを引き受け、自らの振る舞いを

## II していかなければならなかった。

そこで人々は、暗黙的な権力を内面化し、自らの中に実体化していく必要があったのではないだろうか。言いかえれば強制力を伴う法的な措置が取られなかったからこそ、人々は自らの中に強制力を作り出し、それを執行していく必要があったのだろう。その結果、権力は遍在化し、相互監視の網の目の中に埋め込まれるに至る。その執行者となったのが自粛警察だった。

<sup>F</sup>このように自粛という行動様式は、それを要請する主体と引き受ける主体との微妙な駆け引きの上に成り立つ、矛盾を孕んだものだ。しかしわれわれはそこに特段の疑問を差し挟むこともなく、ごく自然にそれを実践してきた。そうしたことが可能になったのは、われわれ日本人が歴史の中で、そうした振る舞い方を学習する機会を何度となく経験してきたからだろう。

その出発点となったのは戦時下の経験だった。例えば「自粛」という語を見出しに含む新聞記事をいくつかの新聞から検索してみると、それらは一九三六年から継続的に現れるようになり、とくに一九三八年から四〇年にかけての時期にその最初のピー

クが現れている。この時期に日本人は、この行動様式を最初に本格的に学習することになったのではないだろうか。

当時は戦時体制に向けて、日本社会がその姿を急速に変えていった時期だった。日中戦争が勃発した直後の一九三七年一〇月には国民精神総動員運動が開始され、三八年四月には国家総動員法が公布された。さらに一九四〇年一〇月には大政翼賛会が結成され、中央からマツタン組織の隣組へと至る、広大な国民統制体制が整えられていく。そうしたなか、「贅沢は敵だ」<sup>ぜいたく</sup>などとしてさまざまな活動の自粛が呼びかけられていった。そこでは自粛という行動が、総動員体制を支え、そのための行動統制と相互監視に **Ⅲ** するものとなっていたと言えるだろう。

その後、さまざまな状況のもとでわれわれはこの行動様式を実践してきたわけだが、それが最大規模のものとなったのが今回のコロナ禍のケースだった。そのためそこには、戦時下のケースと同様の特徴がケン<sup>カ</sup>ン<sup>ク</sup>ン<sup>ク</sup>に見られたのではないだろうか。

つまり今回もまた自粛という行動が、感染防止に向けた総動員体制を支え、そのための行動統制と相互監視に **Ⅲ** するものとなっている。そしてそこで隣組的な統制機関、監視機関としての役割を新たに果たすことになったのが自粛警察だった。だとすればこの現象は、こうした古くからの日本社会のあり方を反映したものだ<sup>G</sup>と見ることができよう。

(伊藤昌亮『炎上社会を考える』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある。)

〔注〕 \* 大政翼賛会……一九四〇年に結成された、官製の国民統制組織。

\* 隣組……第二次大戦下において、国民統制のためにつくられた地域組織。

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- a  b  c  d

a セイサイ

- ① 自由サイリヨウ  
 ② 岩をフンサイする  
 ③ サイゲンなく続く話  
 ④ 支払いをサイソクする  
 ⑤ 投票によりサイケツする

b テツテイ

- ① ショテイの期日  
 ② 法にテイシヨクする  
 ③ 改善案をテイゲンする  
 ④ 常識をコンテイから覆す  
 ⑤ 梅雨前線がテイタイする

c マツタン

- ① レイタンな性格  
 ② 悪事にカタンする  
 ③ 審査結果にラクタンする  
 ④ 要点をタンテキに述べる  
 ⑤ 各地の史跡をタンボウする

d ケンチヨ

- ① 良妻ケンボ  
 ② 晴雨ケンヨウの傘  
 ③ キヨウケン的な政治  
 ④ ケンピ鏡で観察する  
 ⑤ ケンシ的に看病する

問二 傍線部Aについて、「～まがい」の機能は何か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

5

- ① 「～」との類似性が高いことを示す。
- ② 「～」が不道德な行為であることを示す。
- ③ 「～」がおそろしい行為であることを示す。
- ④ 「～」が見当違いの行為であることを示す。
- ⑤ 「～」を目的とした行為であることを示す。

問三 傍線部B「奇妙なことだった」とあるが、何が「奇妙」なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

6

- ① 当初想定していた法的措置の目的は人々の行動を制限することであったが、途中から法的措置の目的が犯罪行為の取り締まりにすり替わったこと。
- ② 人々には自分で自分の行動を制限するよう求めただけだったにもかかわらず、いつの間にか人々が互いの行動を監視し制限するにまで至ったこと。
- ③ 人々の行動を制限するにあたって法的措置は取らずに自粛を要請しただけであったが、その「自粛」が法的措置と同程度の強制力をもつようになったこと。
- ④ 人々の行動制限が必要であったにもかかわらず、そのための法的な措置は取らずに、人々の自己決定に任せた自粛の要請というかたちで行動制限を実現しようとしたこと。
- ⑤ 人々の行動制限を望んでいながら、そのための法的な措置は取らなかったにもかかわらず、人々が自発的に行動を制限しようとしたために、その動きを制限するための法的な措置を取る必要性が生じたこと。

問四 傍線部C「ヒステリック」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

7

- ① 異常に興奮しているさま
- ② ひどく暴力的であるさま
- ③ 常識から逸脱しているさま
- ④ 正義感にあふれているさま
- ⑤ 倫理意識が欠如しているさま

問五 空欄 I に入ることはとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

8

- ① 営為
- ② 規範
- ③ 理論
- ④ カテゴリー
- ⑤ タブー
- ⑥ リテラシー

問六 傍線部D「不謹慎」の本文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

9

- ① 義理・人情というものを理解せず、心が冷たく薄情であるさま
- ② 意図せず他人を傷つけているというように、他人の感情に鈍感であるさま
- ③ 自分の欲望や利益ばかりを優先するというように、自己中心であるさま
- ④ 他人をおもんばかって言動を控えるということをせず、不真面目であるさま
- ⑤ 自分のふるまいを正しいと信じて行動をかえりみることがせず、不遜であるさま

問七 傍線部E「にもかかわらずそれを「要請」するというのは、そしてそれに応えて「自粛」するというのは、そもそも矛盾した考え方だろう」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

10

① 本来、何をどの程度「自粛」するかは本人の意思で決めるものであるが、それを他者が決定し「要請」することは、人々の権利を侵害する傲慢な考え方だ、ということ。

② 本来、何をどの程度「自粛」するかは本人の意思で決めるものであるが、それを他者が決定し「要請」したり、その「要請」に応じたりすることは、根本を取り違えた本末転倒な考え方だ、ということ。

③ 本来、何をどの程度「自粛」するかは本人の意思で決めるものであるが、それを他者が決定し「要請」したり、その「要請」に応じたりすることは、相容れない概念同士を結び付ける考え方だ、ということ。

④ 本来「自粛」とは、自らの意思に基づいて行う行為であるが、それを他者の意思に基づいて行うよう「要請」することは、人々の権利を侵害する傲慢な考え方だ、ということ。

⑤ 本来「自粛」とは、自らの意思に基づいて行う行為であるが、それを他者の意思に基づいて行うよう「要請」したり、その「要請」に応じたりすることは、根本を取り違えた本末転倒な考え方だ、ということ。

⑥ 本来「自粛」とは、自らの意思に基づいて行う行為であるが、それを他者の意思に基づいて行うよう「要請」したり、その「要請」に応じたりすることは、相容れない概念同士を結び付ける考え方だ、ということ。

問八

空欄

Ⅱ

Ⅲ

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ（同一選択肢の反

復使用は不可）。空欄

Ⅲ

は二箇所あるが、同一のことばが入る。

Ⅱ

11

Ⅲ

12

- ① 逸      ② 臆      ③ 介      ④ 屈      ⑤ 資      ⑥ 律

問九

傍線部F「このように自肅という行動様式は、それを要請する主体と引き受ける主体との微妙な駆け引きの上に成り立つ、矛盾を孕んだものだ」とあるが、自肅が「それを要請する主体と引き受ける主体との微妙な駆け引きの上に成り立つ」とはどうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

13

- ① 自肅が行動制限として機能するには、人々が互いの様子を見張り合い、それによって自由な身動きがとりづらくなるという相互監視が必要である、ということ。
- ② 自肅が行動制限として機能するには、政府による「要請」では限界があるため、監視の目が限なく行きわたるよう自肅警察の存在を黙認する必要がある、ということ。
- ③ 自肅が行動制限として機能するには、人々に自肅を望んでいるにもかかわらずそれを強制しないという政府の出方を見て、人々がその強制力の欠如を補うべく行動する必要がある、ということ。
- ④ 自肅が行動制限として機能するには、自肅を要請するという矛盾に対して人々が大きな違和感をもたず、要請された自肅をごく自然に実践するという日本的な特性が必要である、ということ。
- ⑤ 自肅が行動制限として機能するには、政府という権力が自肅を人々に押しつけるのではなく、人々がそれぞれの出方を探り合って何となく動きづらいつらいという雰囲気醸成する必要がある、ということ。

問十 傍線部G「この現象は、こうした古くからの日本社会のあり方を反映したものだ」とあるが、これはどういうこと

か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

14

- ① 自肅警察が犯罪行為に及んだのは、日本人が自肅という行動様式を歴史の中で何度となく経験、学習してきたからであつた、ということ。
- ② 自肅警察による度を越したセイサイ行為は、個人の利益よりも全体の利益を優先しようとする日本的な思想の現れだつた、ということ。
- ③ もし戦時下において隣組という相互監視体制を経験していなければ、コロナ禍での自肅警察という動きは起こらなかっただろう、ということ。
- ④ 自肅警察という現象は、国による暗黙の意思を、国民の側で読み取ろうとし、それを過度に意識した結果として発生したものだつた、ということ。
- ⑤ 自肅警察が生まれた背景には、国が国民全体の行動を統制しようとし、その意思を実現すべく国民が互いに同調を求めて動くという行動慣習の存在があつた、ということ。

問十一 問題文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

15

- ① 戦時下ほど自粛が強く求められた時期はなく、この時期に日本人は自粛という行動様式における振る舞い方を学習した。
- ② コロナ禍での総動員体制と戦時下での総動員体制とはどちらも、行動を統制する権力の所在が曖昧であったという共通点がある。
- ③ 政府は人々の行動を制限する権力を自粛警察に暗に与え、自粛警察はその権力を行使して自粛破りの取り締まりをおこなった。
- ④ 日本人は自粛という行動様式を歴史の中で何度も経験しているため、「自粛を要請され、それを受けて自粛する」ということに大きな違和感をもっていない。
- ⑤ 決まり事に従わず和を乱すことを許さないという日本人の国民性が、コロナ禍において自粛警察が誕生した根源である。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私たちは、様々な意味で「男らしい」という言葉を用いる。スーツを着こなすビジネスマンを「男らしい」と言うこともあれば、肉体労働に汗を流す筋骨隆々の姿を「男らしい」と言うこともある。

社会学者のレイウイン・コンネルは『数々の男らしさ』のなかで、男らしさの複数性と階層性に着目している。社会の中で支配的な地位を占める男らしさは、それ以外の男らしさとの関係性のなかで特権化される。例えば、現代の家父長的な社会ではホワイトカラー、異性愛者、既婚者が「覇権的な男らしさ」とみなされ、ブルーカラーや非正規<sup>a</sup>コヨウ、ゲイ、未婚者といった「従属的な男らしさ」との対比のもとで、特権化されている。

こうした「覇権的な男らしさ」の際立った特徴として、「自立」(independence)と「自律」(autonomy)が挙げられる。家父長的な社会においては、男性たちはしばしば、他人(親やパートナー)に依存しないで自活すること(自立)とともに、自分の意志にのみ基づいて行動すること(自律)を求められる。

**I**、いわゆる「ニート」や失業者のように他人に経済的に依存している男性たちや、もっぱら親や妻の決定に従い「マザコン」や「妻の尻に敷かれた夫」と<sup>B</sup>揶揄される男性たちは、「二人前の男」扱いされない。

**II**、一見すると自立し自律しているような男性たちも、女性たちの視点から見直すと、全く別様に見える。男性たちは試験合格、就職、社会での達成といった成功を自分だけの力で成し遂げたと勘違いしやすいが、実際には、彼らの成功は様々な特権(多数を占める男性評価者や男性たちによって作成された評価基準)や女性たち(母親、妻、事務職員)に依存していることが多い。<sup>(ア)</sup>

親を介護する男性たちについて緻密な分析を行った平山亮は、男性たちが家事・育児・介護だけでなく、それらを機能させる家庭内の細かな関係調整を女性たちに委ねていると指摘している。例えば、親の介護に際して、女きようだいや妻はオウオウにして、自分の男きようだいや夫が介護に加われるように、「誰が・何を・いつ・どのよう」に提供するかということの「お膳立

て」をしている。「イ」

Ⅲ 女性たちは、彼女たちのサポートがなかったかのように振る舞うことで、男性たちが独力でそれを成し遂げたと思わせてあげるといふ「二段重ねのお膳立て」<sup>C</sup>をしている。自分は「自立し自律している」と思っている男性は、実際は、こうした私的領域での依存を「なかったこと」にし、公的領域で自律的に振る舞っているという点で「欺瞞的」<sup>D</sup>なのだ。「ウ」

男性たちは女性たちの「二段重ねのお膳立て」によって、女性のサポートや男性の特権の存在を知りえない状態におかれているのだろうか。けれども、女性の様々なサポートや男性ばかりの面接官を文字通り「見ていない」（知らない）ということはいえない。「エ」

男性たちが、実際には「女性や特権のおかげで」できたことを「自力で」なしたとみなし、「女性や特権に依存している」自分を「自立している」とみなすとき、それはえてして単なる勘違い以上のものを孕<sup>は</sup>んでいる。女性をサポートや男性の特権への依存を否定する男性は、こうした事柄に自分の成果が依存していると思っていないだけでなく、そう思おうとしないことがある。そうした場合、彼らは自分が女性や特権に依存している可能性を示す事実が出てきても、それを無理やり正当化し、そうした事実の重みを奪っていると思われる。「オ」

入試の不正をはじめとした、社会における男性優位を伝える報道に囲まれるなか、男性たちは心のどこかで「もしかしたら女性や特権に依存しているかもしれない」という懸念をもち、そうした懸念を呼び起こす事実を直視しないようにしているのではないか。自分たちが女性たちのサポートや男性優位のシステムに依存してきたという事実を露わにするフェミニズムを、一部の男性たちが「恐れる」のは、こうした事情によるのかもしれない。

でも、と言いたくなる男性もいるだろう。自分たちは「自立し自律した男性」として振る舞うことを周囲の女性たちや社会から求められているのだ、と。もしそうだとしたら、男性たちもまた家父長的な社会の「被害者」ということになるのだろうか。

このことを吟味するために、私自身の「怒鳴ってしまった」経験を手がかりに、「誰が男らしさを求めているのか」を考えて

いきたい。

私は大教室での授業中に、次の時限の授業をジュコウ<sup>o</sup>する学生が、出席のためのカードリーダーを通しに教室にぞろぞろと入ってくるのに遭遇して怒鳴<sup>F</sup>ったことがある。我を忘れてキレてしまったわけではないが、悪質な学生には威圧的な態度で臨まねばという思いがあった。

数人の学生からは「叱ってくれてすっきりした」という反応が返ってきたものの、他の学生からは「恐かった」「怒鳴るのはやめてほしい」といった反応もあった。そのとき、過去に親や教師から怒鳴られたことがトラウマとなっている学生たちの存在を思い出し、怒鳴ってしまったことを後悔した。

自身の言動を振り返ってみたとき、一対一の場面ではなく、第三者に見られていると感じるときに、いわゆる「男らしい」態度（示威的な態度や体面を繕う態度）をとっていることに気づいた。ヒキン<sup>d</sup>な例では、寿司屋のカウンターなどで店員の視線を感じると、口数が少なくなり、「男らしい男」を演じてしまい、同席する妻に居心地の悪い思いをさせたことが何度かあった（しかも、後から妻に指摘されてそのことに気づいた）。

男性学の研究者である田中俊之は、こうした態度を、幼少時から競争を宿命づけられた男性たちが「男らしくしなければならぬ」というプレッシャーを感じ、他人と自分を比較して「見栄」や「意地」を張るといふ形で説明している。フックスは、家長制が男らしさを「恐れるべき」ものにする一方で、「愛されるよりも恐れられる方がよい」と男性たちが感じるようにしている」とする。

こうした解釈は一定の説得力をもつものの、家長制によって男らしい態度をとることを「強いられている」被害者として男性を描きやすい。しかし、男性たちは「男らしく」あることを本当に強いられているのだろうか。

先の例で言えば、私は怒鳴るように学生たちに「強いられている」わけではなく、いくつかの行為の選択肢の中から怒鳴るといふ行為を選択している。あるいは、もしそのとき自分には怒鳴るといふ行為以外の選択肢が本当に見えていなかったのだとすれば、怒鳴るといふ行為を「自分に強いている」と言うことはできる。

学生たちが男性教員に向ける期待によって、威厳ある教師としてズルをした学生には毅然きぜんとした態度をとるよう「強いられている」のだと主張する人もいるかもしれない。しかし、第三者はつねにそのような期待を向けているわけではなく——実際に怒鳴ることを期待していなかった学生も多かった——、むしろ、男性が自身への「男らしさ」の期待を第三者のまなざしに「投影」していることが多い。

第三者のいる場面で「男らしさ」への期待を感じるのも、とりわけ公的な場面（教室）で相手（怒鳴られた学生）に対して「男らしい」振舞いをするを、本当は私自身が自分に求めているにもかかわらず、この要求を第三者（他の学生たち）のまなざしの内に見て取ること、あたかも自分が第三者から男らしさを求められているかのように感じるからだろう。

（小手川正二郎『現実を解きほぐすための哲学』による。なお、設問の都合上、原文の一部を改変した箇所がある。）

〔注〕 ＊ベル・フックス……アメリカの社会活動家。フェミニスト。（一九五二～二〇二二）

問一 問題文には次の一文が欠落している。補うべき場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

16

むしろ、男性たちは女性のサポートや男性の特権と、自分の成果のつながりを注視していないか、過小評価していると考えられる。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ ⑤ オ

問一 傍線部 a ～ d と同一の漢字を使うものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちからそれぞれ一つ選べ。

a

b

c

d

a コヨウ

- ① コガイヘタ涼みに出る
- ② 彼の参加にはダンコ反対する
- ③ コキヤク情報が社外に漏れる
- ④ コキからアルコールが検知された
- ⑤ 不正行為により懲戒カイコとなる

b オウオウ

- ① 芸のシンオウに達する
- ② 東京と名古屋とをオウフクする
- ③ 大陸オウダン鉄道が新たに開通する
- ④ 客のニーズにコオウして登場した商品
- ⑤ 漢詩の特徴のひとつにオウインがある

c ジュコウ

- ① 旅券をコウフする
- ② コウギの声を上げる
- ③ 作品のコウセツを問わない
- ④ 新聞社コウエンによる展覧会
- ⑤ 父はよくコウシヤクを垂れる

d ヒキン

- ① 徴兵をキヒする
- ② ヒクツな態度を改める
- ③ ヒコクに判決が下された
- ④ 島崎藤村のセキヒをたずねる
- ⑤ 長期の戦いに誰もがヒヘイしている

問三 空欄

I

II

III

つずつ選べ(同一選択肢の反復使用は不可)。

① 逆に

② さて

③ まず

④ さらに

⑤ あるいは

⑥ ところが

問四 傍線部A「関係性のなかで特権化される」男らしさについて、例を挙げて説明するとすれば、どのようなものが適当か。

最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

24

① 一方は異性愛者を指し、もう一方は同性愛者を指しており、それぞれの好意の対象に違いがあるとはいえ、両者とも尊重されるべきであるということ。

② 一方は自立(自律)した男性を指し、もう一方は男性を支える女性を指しており、前者の特権化のためにはそれを支える後者の存在が欠かせないということ。

③ 一方は経済的に自立した会社員を指し、もう一方は他人に経済的に依存しているニートを指しており、前者は後者との比較において優位な立場にあるとみなされるということ。

④ 一方は既婚者を指し、もう一方は未婚者を指しており、前者のように家庭をもち、他者との円滑な関係構築ができることこそが、社会で認められる特権の獲得につながるということ。

⑤ 一方はスーツを着こなす知的な仕事に勤しむビジネスマンを指し、もう一方は肉体労働に勤しむ筋骨隆々な男性を指しており、労働の現場において両者の活躍できる場面が対極的であるということ。

問五 傍線部B「揶揄」・D「欺瞞」とほぼ同じ意味を持つ語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一

つずつ選べ。

B 25

D 26

B 揶揄 ① 喧伝げんでん

② 詐称

③ 嘲笑

④ 反目

⑤ 翻弄

⑥ 冷遇

D 欺瞞 ① 懷疑

② 偽善

③ 虚偽

④ 高圧

⑤ 傲慢

⑥ 倒錯

問六 傍線部C「二段重ねのお膳立て」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

27

- ① 男性は自らの力で活躍しているかのようにみえるが、実は女性たちの支援に依存しているということ。
- ② 男性は女性たちの支援によって活躍しているが、女性たちはまるで支援をしていないかのように振る舞っていること。
- ③ 男性は女性たちの支援によって活躍しているが、それは女性による主体的な活躍の機会を奪ったうえで成立しているということ。
- ④ 男性は女性たちの支援によって活躍しているが、女性の支援など、まるで受けていないかのように男性たちが振る舞っているということ。
- ⑤ 男性の活躍を支援している女性たちは、男性優位の社会において、彼女たちによる支援の実情を声高に訴えることが許されていないということ。

問七 傍線部E「単なる勘違い以上のもの」とは何か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

28

- ① 男性は女性に支援を受けていないと思いついでいるが、それは勘違いはなほだしいということ。
- ② 男性は女性からの支援に依存していることに強い自覚をもっているが、決してその事実を認めようとはしないということ。
- ③ 男性は女性からの支援を受けていないと思いついでいるが、それは女性の厚意によつて巧妙に隠されているだけであるということ。
- ④ 男性は女性からの支援に気付かないだけでなく、女性への依存を証明する事実があつたとしても、その事実から目を背けているということ。
- ⑤ 男性は女性からの支援を受けて当たり前だと思いついでいるが、男性優位の社会が崩壊すればすぐに成立しなくなるものであるということ。

問八 傍線部F「怒鳴った」とあるが、筆者は怒鳴った理由をどのように考察しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

- ① 男性教員は「男らしく」あるべきだという教育を「私」が受けてきたから。
- ② 学生が期待するであろう男性教員像を勝手に想像し、そのうえで「私」が「男らしい」振舞いを選び取ったから。
- ③ 学生が男性教員に「男らしさ」を期待したことによって、「私」もその期待に応えようと、威厳のある教師であるかのように振る舞ってしまったから。

④ 学生は誰一人として威厳ある教師など求めてはいないのに、ただ私ひとりだけが威厳ある男性教員のように「男らしく」ありたいと思ったから。

⑤ 「私」の思う模範的な学生像を学生に求めるからこそ、学生が男性教員に求めるであろう威厳ある教員としての「男らしい」振る舞いをする必要が生じたから。

問九 問題文の内容に最もよく合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

- ① 「男らしさ」を分類・分析することなしに、女性の立場を明確にすることはできない。
- ② もし「私」が大学教員でなければ、いわゆる「男らしい」態度をとることもなかったに違いない。
- ③ 男性がいわゆる「男らしい」態度をとってしまう原因は家父長制にあるため、家父長制の撤廃が急がれる。
- ④ 社会における男性優位のシステムは依然として残っており、その事実から目を背け続ける男性の姿勢もまた問題である。
- ⑤ 男性は自身を「男らしい」態度をとることを「強いられている」被害者だと勘違いしており、その勘違いの責任は女性側の側にもある。

### 第三問 次のそれぞれの問いに答えよ。

問一 (i) ～ (v) の二つの語の関係と同じ関係になる組み合わせとして最も適当なものを、次の各群①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) 横柄—尊大

- ① 過日—後日
- ② 勘案—考慮
- ③ 気長—深長
- ④ 堅固—実直
- ⑤ 傍観—注視

31

(ii) 精算—概算

- ① 軽率—嚴重
- ② 機敏—鈍感
- ③ 提出—提供
- ④ 冗漫—簡易
- ⑤ 文明—野蛮

32

(iii) 文字—漢字

- ① 華道—茶道
- ② 球技—野球
- ③ 突風—強風
- ④ 大意—意見
- ⑤ 電車—運賃

33

(iv) 小宅—尊邸

- ① 謹呈—惠贈
- ② 沈降—隆起
- ③ 登場—参上
- ④ 発言—高言
- ⑤ 風評—風雅

34

(v) 納税—税金

- ① 会場—満場
- ② 家畜—畜産
- ③ 地震—震動
- ④ 受注—注文
- ⑤ 入賞—賞金

35

問二 (i)～(v)のことはの意味として最も適当なものを、次の各群①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) ターニングポイント

- ① 共通点
- ② 終着点
- ③ 妥協点
- ④ 着眼点
- ⑤ 転換点

36

(ii) つつがない

- ① 病気や災難などの異常がないさま
- ② 面白みのない退屈な生活を送るさま
- ③ どんなことでも要領よくこなすさま
- ④ 頼る家族がなく、生活に困窮するさま
- ⑤ 信念がなく、すぐに他人に流されるさま

37

(iii) 一言居士

- ① 世間慣れしていて話し方の上手な人
- ② いざというときの一言に重みがある人
- ③ 文芸に秀で、巧みな言葉づかいをする人
- ④ 考え方が偏っていて変わった発言をする人
- ⑤ 何事にも自分の意見を言わないと気がすまない人

(iv) 野放図

- ① 手間がかかって煩わしいこと
- ② 傲慢な態度で人に指図すること
- ③ 不慣れなことに慌てふためくこと
- ④ 規則などに従わず、勝手にふるまうこと
- ⑤ 常識にとらわれず、自由に発想すること

(v) 饒舌じょうぜつ

- ① 口数が多いこと
- ② 大袈裟おおげさに話すこと
- ③ 説得が巧みなこと
- ④ 何度も言い聞かせること
- ⑤ 滋味深い味わいであること

問三 (i) ~ (v) の空欄に入ることばとして最も適当なものを、次の各群 ① ~ ⑤ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(i) 外国人は、「日本人は勤勉である」という  な考え方をしがちだ。

41

① メタファー      ② イデオロギー      ③ ステレオタイプ      ④ インタラクティブ

⑤ コラボレーション

(ii) 公平性を保つため、手心を  ことなく、機械的に評価をおこなう。

42

① 与える      ② 入れる      ③ 加える      ④ つける      ⑤ 引きだす

(iii) 彼女は会話に加わりたいのか、すぐに知ったかぶりをするのが  につく。

43

① 頭      ② 口      ③ 舌      ④ 鼻      ⑤ 耳

(iv) 環境保護には万全を期し、 努力をしていくつもりです。

44

① 鋭意      ② 俄然<sup>がぜん</sup>      ③ 勘気      ④ 執心      ⑤ 邁進<sup>まいしん</sup>

(v) 人への思いやりが  する。

45

① 欠員      ② 欠格      ③ 欠陥      ④ 欠如      ⑤ 欠礼

2025年度 公募制推薦入試  
( 11 月 9 日 )

問題訂正

国 語

3ページ 第一問 問題文 最後の行

(誤) ……部屋にじつとしていられないとある。…

(正) ……部屋にじつとしていられないとある。…

12ページ 第二問 問題文 最後の行

(誤) ……説明されるものではありません。…

(正) ……説明されるものではありません。…

2025度 公募制推薦入試  
( 11 月 9 日 )

問題訂正

国  
語

5ページ  
第一問問二

(誤)

選択肢①けだし

(正)

選択肢①かくなる